

昭和59年度春季大会・第38回通常総会

自動車技術会は、会員数2万名に手が届くようになり、事業企画委員会の答申にそつて、会員サービスの向上、支部の充実、国際関係の強化を重点として活動を続けている。

青葉薫 5月22日～24日に亘り、昭和59年度の春季大会が東京で開催され、学術講演会、研究懇談会、第38回通常総会、第1回評議員会、第34回自動車技術会賞授賞式、浅原賞学術奨励賞受賞者特別講演会、懇親会及び見学会がとり行われ、参加者延850名に及ぶ盛況であつた。

1. 学術講演会

5月22～23日の両日、東条会館において3会場にわかれ37講演（A講演26、B講演11件）が発表された。

今回から海外SAE会員の講演発表を受入れることとなり、SAE of China及びKorea SAEより3講演が英語で発表され、会場での活発な討論と技術交流が行われた。

座長には横田克彦（いすゞ）、高木靖雄（日産）、原田宏（トヨタ）、吉本堅一（東大）、岡村秀勇（上智大）、大野進一（東大）、河野通方（東大）、佐々木彰（本田）、樋口健治（法政大）の各氏が担当した。

2. 研究懇談会

5月22日（火）15:20～17:00同じく東条会館において振動騒音性能部門委員会企画による「自動車の振動騒音低減に関する課題」と題し、岡村秀勇（上智大学）、藤井雄一（トヨタ自動車）、千田達郎（いすゞ自動車）の各氏より話題提供があつた。

学術講演会運営委員会佐藤武委員の進行により中村弘道技術会議議長のあいさつのおと、OHPを使い新しい環境下での振動騒音問題にふれ、振動騒音現象の種類と性質・車両振動騒音の発生メカニズムと対策方法・最近の対策技術とその動向・最近の振動騒音の実験解析技術、さらに今後の課題について解説された。

話題提供のおとは66名の参加者により振動騒音解析技術全般について討議と意見交換が行われた。

（当日配布資料：A4判、20ページ）

3. 第38回通常総会

日 時：昭和59年5月23日（水）13:30～15:30

会 場：東条会館 1階 ホール

出席正会員：106名

委任状提出正会員：9,686名

（昭和59年3月31日現在の正会員数：18,948名）

高橋会長の議長により、景山常任理事から出席正会員数及び委任状提出正会員数について報告を行い、議長より定款第30条の定めるところにより第38回通常総会成立の旨を告げた。

議事に先立ち高橋会長の挨拶があつたのち、議案の審議に入つた。

・第1号議案：昭和58年度事業報告の件

高橋議長の指名により、田中総務担当理事から資料により昭和58年度事業報告が行われた。

・第2号議案：昭和58年度決算報告の件

高橋議長の指名により、天野会計担当理事から資料により昭和58年度の一般会計、出版会計、規格会計及び特別会計の各会計について決算報告が行われた。

ついで、昭和58年度業務及び会計について岩崎・坪井両監事が昭和59年5月16日に監査を行つた結果、いずれも適法かつ正確であることを認めた旨、岩崎監事から報告があつた。

議長、以上2件について賛否を諮つたところ、全員異議なく承認された。



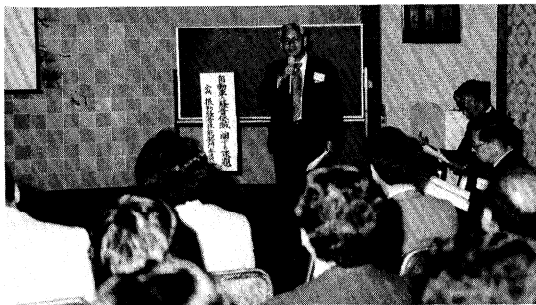
通常総会

自動車技術会受賞者

- ・第3号議案：昭和59年度事業計画（案）の件
 高橋議長 の指名により、中塚総務担当理事から資料により昭和59年度事業計画（案）について説明が行われた。
 議長、これについて賛否を諮ったところ、全員異議なく原案どおり承認された。
- ・第4号議案：昭和59年度予算（案）の件
 高橋議長 の指名により、石井会計担当理事から資料により昭和59年度各会計の予算（案）について説明が行われた。
 議長、これについて賛否を諮ったところ、全員異議なく原案どおり承認された。
- ・第5号議案：昭和59・60年度評議員決定の件
 高橋議長 の指名により、青木選挙管理委員から昭和59・60年度評議員選挙結果について報告が行われた。
 議長、これについて確認を求めたところ、全員異議なく、243名の評議員が選任された。
 ここで、約30分間総会を休憩して別室において第1回評議員会を開催し、昭和59・60年度理事・監事の選任及び会長・副会長・支部長の推薦について審議された。
 ついで、総会は15：10より再開した。
- ・第6号議案：昭和59・60年度理事・監事選任結果及び
- ・第7号議案：昭和59・60年度会長・副会長・支部長選任の件
 先ず高橋議長から第1回評議員会において昭和59・60年度理事・監事について資料のとおり選任された旨報告が行われ、続いて同じく第1回評議員会において推薦された昭和59・60年度会長・副会長・支部長（案）について賛否を諮ったところ、全員異議なく原案どおり選任された。
 ここで、森田新会長の挨拶が行われた。
- ・第8号議案：名誉会員推薦の件
 高橋議長から去る4月13日開催の第11回理事会及び第3回評議員会の承認により、次の2会員の名誉会員推薦を諮ったところ、満場一致で推薦された。
 名誉会員 志熊平治郎
 ” 神田 新市（欠席）
 高橋会長より志熊名誉会員に記念品が贈呈され、同名誉会員から挨拶が行われた。

4. 第34回自動車技術会賞授賞式

5月23日（水）15：50～16：05 東条会館1階ホール
 授賞式は高橋会長の挨拶に続いて、中塚総務担当理事から選



研究懇談会

考経過報告が行われた後、7名の受賞者に対しそれぞれ賞状及びメダルが授与された。なお、浅原賞技術功労賞については応募がなかった。

《浅原賞学術奨励賞》

(1) 自動車の操安性に関する研究

（受賞者） 中谷 弘能君 芝浦工業大学
 古川 修君（株）本田技術研究所

（受賞の理由） 両君は、「車両のヨー応答特性と横加速度応答特性が人間—自動車系の性能に及ぼす影響」（自動車技術会論文集 No.26, 1983）において人間—自動車系の立場からすすめてきた独創的な研究の成果を報告している。すなわち、

- i) 一般には分離不可能な車両の横加速度とヨー角速度を、後輪操舵による巧みな着想で分離、独立させ、
- ii) 次にそれぞれを変化させて、人間—自動車系におけるそれらの効果、影響について解明したものである。

中谷君は、独創性豊かな実験装置を開発し、多くの実験を遂行して本研究を成功させ、古川君は、理論面から車両のヨー角速度と横加速度とを分離して人間—自動車系におけるそれらの効果、影響について解明し、操安性の新しい評価法をまとめることに成功している。

自動車の操縦性・安定性の研究が次第に完成の域に近づき、飛躍的性能向上はむずかしくなりつつあるとき、両君の4輪操舵の研究の場におけるこの独創的な研究は、自動車技術の近い将来に、大きく貢献するものであり、両君の今後の研究活動には大きな期待が持たれるものである。

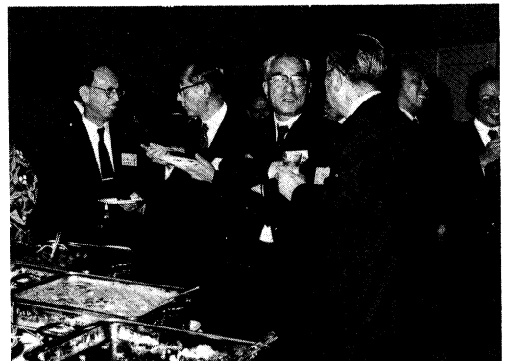
(2) ピストン形状の決定法に関する研究

（受賞者） 八木 寿郎君 マツダ(株)

（受賞の理由） ピストンの外周形状の決定は、極めて複雑な環境条件下にあるため、定量的に決めることは困難であり、実機関による多くの繰返しテストを要するのが通常であつた。

八木君は、摩耗性能に特徴を有する新しい複合材料を開発し、これをピストンに適用することによって、短時間に精度高くピストン形状を決定する方法を開発したもので、その有効性は実機関によって実証され、新しい技術として確立されるに至つた。

これは、複合材料とメカニズムの境界領域から、エンジン開発技術の発展に寄与するものとして、注目に値するものであり、同君の材料を専門とする立場から今後の自動車技術の発展への大きな貢献が期待される。



懇親会



〈齋 藤 賞〉

(1) 動力伝達系の流体理論体系化による自動車工学の進歩・発展への貢献

(受賞者) 石原 智男君 東京大学名誉教授

(受賞の理由) 昭和27年の流体変速機の特性についての本会学術賞の受賞に見る如く、石原君は戦後のわが国の自動車技術開発の初期から、流体力学の基礎に立つて、各種流体機械装置の性能に関し理論ならびに実験研究を行い、流体トルクコンバータの理論的性能解析法、自動変速機の変速特性の理論解析など、独自の流体解析理論体系を構築し、自動車用パワートレーンの発展の基礎を確立する上で大きな貢献をしてきている。

流体トルクコンバータについては上記のほか、高性能一段型トルクコンバータ継手の完成、流体トルクコンバータの流れの可視化技術の開発を、また、自動変速機については過渡状態で発生する衝撃的トルク変動を理論的に解明し、実機にまで発展を可能とした。

また、最近ではトロイダル型無段変速機の新しい設計手法を研究・開発するなど、同君の「動力伝達系の流体理論の体系化」による自動車工学の進歩発展への貢献は真に大きい。

(2) 自動車用内燃機関の燃焼解析を主とする学術の進歩発展への貢献

(受賞者) 松岡 信君 東京工業大学名誉教授

(受賞の理由) 内燃機関の燃焼機構やその過程をその内部から解析することは、機関性能の向上、排出ガス特性の改善に極めて効果的であるが、その測定はなかなか困難とされてきた。

松岡君は新しい測定方法を開発し、この方面の研究に最も必要とされていた、ディーゼル火炎温度・空気導入率・火炎内当量比の測定を可能にするとともに、同火炎内燃焼生成物、NO_x、すすの生成・消滅の過程の研究、すす生成・酸化の速度の究明を行い、自由噴霧・火炎の研究と併せ、未解明点の多かつたディーゼル噴霧と火炎の全貌を明らかにした。

これは、かねてからの懸案であつた燃焼の全体像を明示したもので、今後のこの分野での研究や開発にとつて重要な指針となるべきものとして、貢献するところ真に大である。

また、同君のガソリン機関の燃焼機構についての解明は、サイクルごとの燃焼変動の原因究明をはじめ、NO_xの生成・低減にまで寄与している。

このように同君の自動車用内燃機関の燃焼解析による自動車工学の進歩発展に貢献するところ極めて大である。

〈中 川 賞〉

(1) 商業車の開発を通じて永年に亘り技術の向上に貢献した実績

(受賞者) 阿知波 二郎君 日産ディーゼル工業(株)

(受賞の理由) わが国初めてのフレームレスリアエンジンバスの開発に携わつて以来、永年に亘りバスおよびトラックの技術開発と後進の指導にあつてきた。その間、同君は上記の開発のほか第5回自動車技術会賞技術賞を受賞した高速2サイクルディーゼルエンジンの開発、空気ばね付バスの開発、さらに最近では主流となつた4サイクル直噴ターボディーゼルエンジンの早期の開発等、バス・トラックについて数多く

の技術開発と実用化の実績を挙げてきている。

このように同君のわが国のバスおよびトラックの技術の進歩・発展に貢献した功績は極めて大きい。

(2) 自動車用3気筒1リッター・ディーゼルエンジンなどのエンジンの開発及び商品化

(受賞者) 大須賀 二郎君 ダイハツ工業(株)

(受賞の理由) 永年に亘り、小型エンジンの研究開発・製造に従事し、エンジンの品質保証・低燃費の実現に貢献してきている。

特に、近年とみに重要性の高くなつた乗用車の燃費低減を実現するため、在来から難しいとされてきた3気筒エンジン、小排気量高速ディーゼルエンジンの開発に取り組みこれを完成し、商品化させたことは、わが国の乗用車用小型ディーゼルエンジンの進歩・発展に大きな貢献を与えたものであり、その功績は誠に顕著である。

5. 自動車技術会賞受賞者特別講演会

5月23日(水) 16:10~17:15 東条会館ホールにおいて、第34回自動車技術会賞(浅原賞学術奨励賞)を受賞した古川修君の「操舵応答特性が人間-自動車系の制御性能に及ぼす影響」及び八木寿郎君の「複合材を利用したピストン形状決定法」と題する特別講演が行われた。

6. 懇 親 会

5月23日(水) 18:00~19:30 東条会館スタールームにおいて、恒例の懇親会を催した。

文部省大崎学術国際局長、占部情報図書館課長、運輸省丹羽整備部長ほかの方々来宾として参会された。

高橋会長の挨拶に続いて、荒牧名誉会員の幹杯により幕をあげ、140名をこえる会員有志は若葉薫一塔を和やかに歓談、親睦を深め合い、長尾名誉会員の万才三唱により盛況裡に懇親会を終了した。

7. 見 学 会

58年度秋季大会より会員サービス向上のため見学会参加費を無料とし、賛助会員各社のご配慮により次の11班の見学会を実施したところ、総計559名の参加をみた。

1班	日産自動車(株)栃木工場	参加者	68名
2班	(株)日立製作所・佐和工場		35名
3班	横浜ゴム(株)平塚製造所		27名
4班	日本板硝子(株)千葉工場		26名
5班	(株)小糸製作所榛原製作所		28名
6班	トヨタ自動車(株)高岡工場・上郷工場		102名
7班	アイシン精機(株)西尾工場		56名
8班	愛知機械工業(株)熱田工場		40名
9班	ダイハツ工業(株)滋賀工場		71名
10班	日産ディーゼル工業(株)群馬工場		62名
11班	日産車体(株)本社工場		44名

以上のとおり、59年度春季大会は概ね天候にも恵まれ、盛況裡に全日程を終了することができた。

なお、秋季大会は東北支部の協力により、10月17日~19日の間、杜の都仙台市を中心に開催される。